

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-323	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Self-intoxication with baclofen in alcohol-dependent patients with co-existing psychiatric illness: an emergency department case series. アルコール依存的な共存している精神病患者のバクロフェンによる自家中毒：救急医療でのケース		
<b>執筆者</b>		
Franchitto N <sup>1</sup> , Pelissier F, Lauque D, Simon N, Lançon C.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Alcohol. 2014 Jan-Feb;49(1):79-83.		
<b>キーワード</b>		
バクロフェン、アルコール依存症、自殺		
<b>要 旨</b>		
<p>目的：</p> <p>本研究の目的は、救急治療部（ED）に来院した経口バクロフェン自動中毒のアルコール依存症患者に見られる共存する精神疾患の特徴と管理を述べることである。</p> <p>方法</p> <p>2012年1月からの12カ月間のそのような患者の医療記録の後向き再調査。</p> <p>結果</p> <p>そのような12例の患者は同定された（39.5年の年齢の中央値）。バクロフェンの想定された摂取された服用量の中央値は、340mg（範囲140-800mg）であった。ベンゾジアゼピンを共同摂取した3例の患者は意識レベルの低下（Glasgow Coma Scale&lt;8）があり、そして、フルマゼニルが昏睡から戻すために与えられた。血中アルコール濃度（すべての患者のために要請された）は、3例（153から495mg/100ml）で陽性だった。胃洗浄は、2例で行われた。すべての患者は、完全な回復をした。彼らは、精神医学的な評価の後 ED または集中治療病棟から退院した。</p> <p>結論</p> <p>バクロフェンの過量服用は、自律および中枢神経系に影響を及ぼす。補助治療は、対症的に行う。他の中枢神経抑制薬を服用している患者、そして、過去の自殺未遂をもつ患者にバクロフェンを処方するときには、注意が必要である。</p>		